

2007(平成19)年4月23日

東京都病害虫防除所

平成19年度病害虫発生予察情報 特殊報 第1号

病害虫名: クワシロカイガラムシ

Pseudaulacapsis pentagona

対 象: チャ

1. 特殊報の内容

東京都内の茶園でクワシロカイガラムシの発生をはじめて(島しょを除く)確認した。

2. 発生経過など

(1) 2007年2月中旬, 普及センターよりクワシロカイガラムシによると思われる被害茶樹の枝が持ち込まれた。そこで, 埼玉県農林総合研究センター茶業特産研究所小俣博士に写真による同定を依頼したところ, クワシロカイガラムシと判明した。写真では白い雄のまゆと橙黄色の雌が確認された(図1)。

(2) その後の調査で, 2カ所の茶畑で被害が確認された(図2)。東京都における本種の被害は伊豆諸島の一部で確認されていたが, 島しょ以外でははじめてである。本種は関東より西の茶産地では重要な難防除害虫となっているが, 東京都においても発生の拡大が懸念され警戒を要する。

3. 形態および生態

(1) 埼玉県の特報によれば, 雌成虫の体長は1.1mm~1.3mm、雄は0.7mm~0.9mmである。雌は楕円形で橙黄色をしていて直径1.7mm~2.8mmの白い介殻で覆われる。ふ化幼虫ははじめ活発に歩行するが, やがて介殻を作り太い幹の部分や枝に定着する。5~6月と7~8月と地域によっては9~10月の年2回から3回発生する(埼玉県17年度特殊報第2号)。

4. 被害

(1) 初期の被害は目立たないが, 寄生が進むと芽の生育が不良となり, 古葉が黄変落葉し, 枝梢や幹が枯死する。太い幹の部分を中心に雄まゆが集中的に定着し, その部分が白い綿状の被害として気が付くことが多い。

5. 防除対策

(1) 防除効果が高いのは幼虫が口状物質に覆われる前の数日間である。ふ化最盛期である5月中旬から6月上旬と7月下旬から8月中旬が防除適期である。ふ化最盛期を逃すと防除効果が落ちる。防除は表1の殺虫剤を参考に行う。

(2) 整枝等の刈り取り残渣や抜根株を他の茶園に投入しない。

(3) 作業に使用した摘採機や整せん枝機はよく掃除し、機械による虫の持込を防ぐ。

(4) 購入苗は本種が寄生していない事を確認して導入する。

表1 チャにおけるクワシロカイガラムシ殺虫剤例

薬剤名	使用時期	使用回数	希釈倍率	備考
アプロードフロアプル	摘採 14 日前	2 回	1000 倍	若齢幼虫
スプラサイド乳剤 40	摘採 14 日前	1 回	1000 ~ 1500 倍	劇物
カルホス乳剤	摘採 21 日前	1 回	1500 倍	劇物
マシン油乳剤	* 1			
* 1 : 個々の銘柄により使用基準が異なるのでラベルを参照して、登録のあるものを使用する				

7. 図



図1 クワシロカイガラムシの雄まゆと雌



図2 茶樹の被害状況